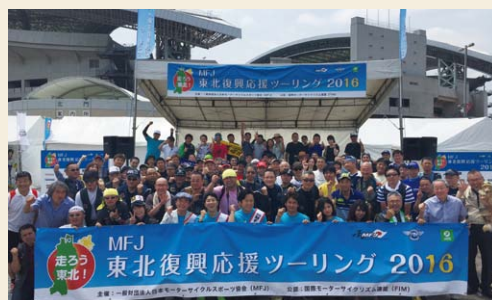


地球に遊ぶ

この秋は、MFJ「東北復興応援ツーリング」
環境の保全に配慮、親しまれる走りです社会に貢献。



日本最大のサッカースタジアムをバックに参加者全員（ちょっと少ないけど）の記念写真です。10月まで、がんばるぞー！

この8月1日～10月31日までの期間で、今年で2年目になるMFJ「東北復興応援ツーリング」のキャンペーンがはじまった。
その内容は、2011年の東日本大震災で被災し、今だ復興の途上にある東北沿岸部をバイクでツーリングし、道の駅のスタンブラリーやフォトコンテスト、これに付帯するイベントやボランティアの活動に参加しながら、ご当地のレストランやカフェ、GSなどを利用して地域復興への一助になろう！というものが、バイク界のこんな二連の社会貢献活動は、これまでに本でも初めて試み。

昨年は10月に宮城県石巻市のサンファン館ビレッジに結集し、11月の31日までの期間、スタンブラリーを行ないながら各地を巡り、地域でのボランティア活動に参加したり、旅先での様々な出会いを通じて行なった交流を各自レポートにまとめ、その優秀者にはMFJ年末恒例の

「ランキング授賞式」において表彰をするなどして行われた。

このバイクによる社会貢献活動の、言い出しっぺは？実は何を隠そうこの項の筆者なのだが、狙いの本音（ベース）は近年減少の一途を辿るレーシングライダー人口や、レース場の観客動員数の復活に向けて、いま最も元気が良いとされるツーリングライダーの諸氏に、東北の復興を支援するという形でMFJへの「ボランティア登録」（2千円）をお願いし、今後のMFJ会員の発展に繋げていこう！という一挙両得の作戦だった。のだが、果たして？

うん、それがなかなか、て、こ、わ、い、のだ。

去る8月11日（山の日の祝日）に「さいたまスタジアム20002」で行なった同キックオフイベントに参集したライダーたちは200名と、ちょっとばかり少なかった？現場は5万人を収容する日本を代表するスタジアムである。そこに隣接する駐車場なのだから、本音を言えば、もう少し沢山の参加者に来て欲しかったのだが、本当に。



今年の復興応援大使となった「ななめ45°」のお三方。二喜協のブースに入って、安全宣言をしました。

このイベントが行われた二週間前、僕は所用（実は釣り）でカナダにいた。カナダ第2の都市バンクーバーの、とある早朝のガソリンスタンドだった。ピカピカの大型バイクに乗り、頭にターバンを巻きサングラスをかけたライダー達のグループと、インディアン、ハーレー、etc.

「これから何処に？」
「今から仲間と合流し、小児癌で悩む子どもたちを救うための募金の活動ツーリングに行くのさ」と、意気揚々、得意げな顔付きだった。

ターバンにゴーグル姿の彼らは、カナダでは言わば定番化したシーク教徒のライダーたちである。道路には定められたルールが有るものの、宗教までを規制した無理強いはいらないと言うのが多国籍国家のカナダらしいところだ。聴くところによると、彼らは24台のマシンに乗り、毎日1200km、10日間、12000kmを走って募金を募り、目標額以上の6万ドル（650万円）を集めて「Children Cancer Society」に寄付を行い、世間の話題となった。

欧米では様々な形のモーターサイクルのライダー達による社会貢献活動が盛んに行われている。走行1マイル毎に1ドルを寄付する「セイブ・ザ・チルドレン」の活動、乳がん基金の「ピンクリボン」、難民救済の基金、貧困層の孤児を救う基金「グリーンリボン」の臓器移植基金など、ありとあらゆるテーマの基でのFundation（基金）やDonation（献金）の活動が普及している。

新しい風を身体いっぱい受け、感動の走りをしながら、社会への貢献ができ、何処かの誰かが喜んでくれるなんて、とて

つもなく素晴らしいことだと僕は思う。

今回のMFJの「東北復興の応援ツーリング」は、FIM（国際モーターサイクルリズム連盟）の環境コード（1994年設定）を基にした正式な公認事業として、環境の保全に配慮しながら、モーターサイクルの経済性と機動性を活かした社会への貢献の活動を広くライダーに呼びかけたものだ。

8月11日のキックオフで弾みをかけたこのイベント、10月31日までの会期中、まだまだ様々な内容で

<http://www.mfj.or.jp/touring/>
東北の各地で楽しく展開されるので、振るつて皆さんの参加をお待ちします。



スタジアムをバックに東北に向けてスタートする参加ライダー達。



ターバン姿に髭面が定番のシーク教徒のライダーさん達と記念写真。バイクはピカピカのヤマハXVSでした。



（右）1日1200km プリティッシュコロンビアからアルバータ、マニトバ、オンタリオ、ケベックと1万2000kmを走って募金を集めた話題のターバンライダー。（左）可愛いワンちゃんと一緒に参加してくれたトライクのお兄様。ワンちゃんのヘルメットが大きくて前が見えません。

風間深志

冒険家

プロフィール

1980年のキリマンジャロ・バイク登攀を皮切りに、82年パリ・ダカ日本人初参戦、総合18位。84、85年世界最高峰エベレストに挑み高度6005mの世界高度記録。87年北極点到達。同年ファラオラリー250クラス優勝。88年アコンカグア峰にバイク登攀、高度6750m。92年南極点到達など、数々の冒険の傍らNPO地球元気村の活動。08年よりWHO運動器の10年国際親善大使就任。

*NPO法人「地球元気村」代表
<http://www.chikyuu-genkimura.com/>

